

## 今村昌平監督が日本映画大学に託した願い

### DXとコロナ禍が映画と私たちに遺すもの

～日本初となる映画単科大学の軌跡～

しんゆりエリマネ  
2022 第2回  
オープンミーティング

©SHOGO TOMIYAMA

1

#### 日本映画大学の軌跡 1975年－2022年

##### 日本映画大学

1975年 今村昌平監督が映画スタッフの育成を目的に創設し 本年47年を迎えた日本で唯一の映画単科大学

1975.4 横浜放送映画専門学院 2年制 1985.11 日本映画学校 3年制 2011.4 日本映画大学 4年制

日本映画学校は、人間の尊厳、公平、自由と個性を尊重する。  
個々の人間に相對し、人間とはかくも汚濁にまみれているものか、  
人間とはかくもピュアなるものか、何とうさんくさいものか、何と助平なものか、  
何と優しいものか、何と弱々しいものか、人間とは何と滑稽なものなのかを、真剣に問い、  
総じて人間とは何と面白いものかを知って欲しい。  
そしてこれを問う己は一体何なのかと反問して欲しい。  
個々の人間観察をなし遂げる為この学校はある

1996.3 理事長 今村昌平

横浜放送映画専門学院・日本映画学校・日本映画大学の卒業生は延べ6500人。  
その卒業生の多くは今日の日本映画の製作スタッフの中心として  
ほぼすべての日本映画の製作現場に携わっている。

©SHOGO TOMIYAMA

2

## 先輩の活躍

### 日本映画界を支える圧倒的なネットワーク

本学の一貫の特長、それは「映画を仕事にする」こと。  
45年以上の映画教育実績（横浜放送映画専門学院・日本映画学校・日本映画大学）で、7,000名ほどの卒業生を映画・映像業界に輩出しました。  
その膨大なネットワークを背景に、卒業生が携った作品は毎月のように公開されており、ここではそのほんの一部をご紹介します。

卒業生のインタビュー記事  
「OB・OGが伝える、映画エンターテインメントづくりの醍醐味」



#### 映画



『ドライブ・マイ・カー』  
プロデューサー / 山本英久 (日本映画学校15期 2003年卒)  
監督助手 / 中村淳介 (2008年卒)  
撮影助手 / 水村謙吾 (日本映画大学1期 2015年卒)  
テクニカルディレクター / 石橋英治 (南1期 2004年卒)  
アシスタントディレクター / 豊橋幸彦 (日本映画大学2017年卒)  
サウンドエディター / 村之根 一博 (1979年卒)  
日本映画大学 (卒 2021年卒)  
制作主任 / 阿部史朗 (日本映画学校18期 2006年卒)  
多賀真樹 (2021年 2009年卒)



『プレイ-群青戦記-』  
監督 / 本広克行  
日本放送映画専門学校11期 (1987年卒)  
ラインプロデューサー / 坂本忍久  
(18期 1979年卒)  
BlueArcの専任  
監修 / 坂本忍久  
©2021プレイ-群青戦記-制作委員会  
©監修美術 / 藤井 浩



『水上のフライト』  
脚本・監督 / 藤原浩 (日本映画学校1期 1959年卒)  
撮影 / 向後光徳 (同上)  
編集 / 川原功 (横浜放送映画専門学院 1970年卒)  
制作担当 / 阿部史朗 (日本映画学校18期 2006年卒)  
DVD / VA 180 (税込)  
Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 阿部史朗 (同上)  
©2020映画「水上のフライト」制作委員会



『アンダードッグ 前編・後編』  
原作・脚本 / 足立紳 (日本映画学校7期 1995年卒)  
撮影 / 西村博光 (20期 1991年卒)  
編集 / 藤久和徳  
(横浜放送映画専門学院) 1981年卒)  
DVD / VA 180 (税込)  
Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 藤久和徳  
©2021アンダードッグ制作委員会



『私をくいとめて』  
撮影 / 中村寛基  
(日本映画学校3期 1996年卒)  
Blu-ray/DVD 専任  
監修 / 藤久和徳 (同上)  
DVD / VA 180 (税込)  
監修 / 藤久 / 藤久和徳



『子供はわかってあげない』  
プロデューサー / 佐藤高広 (横浜放送映画専門学院11期 1987年卒)  
監督 / 久保雄介 (日本映画学校12期 1990年卒)  
編集 / 佐藤高広 (同上)  
脚本 / 佐藤高広 (同上)  
監督助手 / 藤原浩 (1期 1959年卒)  
制作 / アニムプロデューサー / 藤原浩 (1982年卒)  
Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 藤原浩 (同上)  
©2021子供はわかってあげない制作委員会 / 中橋真樹 / 藤原浩



『妖怪大戦争 ガーディアンズ』  
プロデューサー / 三池崇史  
(横浜放送映画専門学院) 1981年卒)  
監督 / 高橋洋一 (日本映画学校10期 1998年卒)  
撮影 / 山本英夫 (8期 1982年卒)  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 高橋洋一  
©2021妖怪大戦争 ガーディアンズ



『映画クレノンしんちゃん  
〜キリ花の天才学園〜』  
監督 / 高橋洋一 (日本映画学校10期 1998年卒)  
撮影 / 山本英夫 (8期 1982年卒)  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 高橋洋一  
©2021映画クレノンしんちゃん制作委員会 / ADK 2021



『地獄の花園』  
脚本 / 『5センチメートル』 (日本映画学校10期 1997年卒)  
編集 / 小野寺勉吾 (14期 2000年卒)  
Blu-ray/DVDの専任  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 小野寺勉吾  
©2021『地獄の花園』制作委員会



『映画大好きポンポさん』  
編集 / 今野 陽 (日本映画学校4期 1992年卒)  
©2020 株式会社【陽】 / KADOKAWA / 映画大好きポンポさん制作委員会



『サマーフィルムにのって』  
プロデューサー / 若林雄介  
(日本映画学校12期 2000年卒)  
監督補・キャスト・撮影 / 塩崎通 (同上)  
撮影 / 足立紳 (11期 2007年卒)  
山崎純真 (17期 2005年卒)  
照明 / 谷本幸治 (12期 2003年卒)  
編集 / 平井謙一 (18期 2006年卒)  
ラインプロデューサー / 大橋敏之  
(13期 2001年卒)  
監修 / アニムプロデューサー / スタン  
©2021サマーフィルムにのって制作委員会



『キャラクター』  
プロデューサー / 石井洋  
(横浜放送映画専門学院) 11期 1987年卒)  
監督 / 藤原浩 (同上)  
監修 / 藤原浩 (同上)  
テクニカルディレクター / 石田記理  
(17期 1995年卒)  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 藤原浩 (同上)  
©2021『キャラクター』制作委員会



『MIU404』  
著 / 野木繁紀子  
(日本映画学校3期 1996年卒)  
河出書房新社



連続ドラマW (wowow)  
『コールドケース3〜真実の扉〜』  
撮影監督 / 山田保介  
(日本映画学校11期 1999年卒)  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 山田保介 (同上)  
©2020 WOW / Warner Bros. / NH TV / Bookmark



『シェフは名探偵』  
脚本監督 / 木村ひさし  
(日本映画学校2期 1956年卒)  
Blu-ray/DVDの専任  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / ひさし (同上)  
©シェフは名探偵制作委員会



『【出川哲朗の完結させてもらえませんか?】  
初夏の「遊撃手島」どピーと総額155万円!』  
脚本 / 出川哲朗  
制作 / 出川哲朗  
制作 / 出川哲朗 (横浜放送映画専門学院) 1985年卒)  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 出川哲朗



『内村さまへ〜 SECOND Vol.85』  
出演 / 内村光良  
(横浜放送映画専門学院) 9期 1985年卒)  
DVD / Blu-ray/DVDの専任  
監修 / 内村光良 (同上)  
©2021内村さまへ〜制作委員会



『『鬼滅の刃』に学ぶ  
絶望から立ち上がるための  
27の言葉』  
著 / 堀田孝之  
(日本映画学校21期 2009年卒)  
監修 / 堀田孝之  
小学館 / 堀田孝之 / 小学館出版



『今日も読む口説こうか』  
著 / 平子祐希  
(日本映画学校12期 2008年卒)  
小学館

**日本アカデミー賞(日本アカデミー賞協会主催)**

1年をふり返る映画賞の「顔」ともいえる日本アカデミー賞には、多くの卒業生たちがその栄誉を受けてきました。また本学の学生たちは別年、授賞式リハーサルを手伝っています。

**第45回(2021)**

『いのちの停車場』・優秀美術賞/福澤順広  
・優秀録音賞/藤本賢一  
・優秀編集賞/大畑英亮

『キネマの神様』・優秀照明賞/土山正人

『孤狼の血 LEVEL2』・優秀編集賞/加藤ひとみ

『隠れなかった者たちへ』・優秀脚本賞/林民夫  
※高木久生監督と共同

『燃えよ剣』・最優秀美術賞/原田哲男

**第42回(2018)**

『北の桜守』・優秀編集賞/李英美

『孤狼の血』・優秀編集賞/加藤ひとみ

『空飛ぶタイヤ』・優秀脚本賞/林民夫  
・優秀録音賞/栗原和弘  
・優秀編集賞/川瀬功

『万引き家族』・最優秀照明賞/藤井秀

**第39回(2016)**

『百円の恋』・最優秀脚本賞/足立紳  
・最優秀美術賞/原田哲男

**第38回(2016)**

『永遠の0』・優秀脚本賞/林民夫  
※山崎貴監督と共同

・最優秀録音賞/藤本賢一  
・最優秀編集賞/宮島竜治

『紙の月』・優秀編集賞/佐藤謙

『網ノ記』・優秀編集賞/阿賀英登

『ふしぎな岬の物語』・優秀録音賞/藤本賢一  
・優秀編集賞/大畑英亮

**第44回(2020)**

『浅田家!』・優秀監督賞/中野量太  
・優秀脚本賞/中野量太  
※菅野友恵と共同

『男はつらいよ お祭り 寅さん』・優秀照明賞/土山正人

『罪の声』・最優秀脚本賞/野水亜紀子  
・優秀撮影賞/山本英夫

『Fukushima 50』・最優秀撮影賞/江原祥二

**第41回(2017)**

『アウトレージ 最終章』・優秀編集賞/太田義則  
※北野武監督と共同

『花嫁さ』・優秀録音賞/尾崎聡  
・優秀編集賞/阿部互英

**第40回(2015)**

『怒り』・優秀監督賞/李相日  
・優秀脚本賞/李相日  
・優秀編集賞/今井剛

『海賊とよばれた男』・優秀録音賞/藤本賢一  
・優秀編集賞/宮島竜治

『シン・ゴジラ』・最優秀撮影賞/山田康介

『湯を沸かすほどの熱い愛』・優秀監督賞/中野量太  
・優秀脚本賞/中野量太

**第36回(2012)**

『あなたへ』・優秀脚本賞/菅島武

『のぼうの城』・優秀撮影賞/清久源延  
江原祥二

『わが母の記』・優秀録音賞/松本昇和

**第43回(2019)**

『アルキメデスの大戦』・優秀編集賞/宮島竜治

『カツベン!』・優秀脚本賞/片島章三

『キングダム』・優秀編集賞/今井剛

『新聞記者』・優秀編集賞/吉川遼馬

**第35回(2011)**

『最後の忠臣蔵』・最優秀美術賞/原田哲男  
※西岡憲徳と共同

『ステキな金縛り』・優秀撮影賞/山本英夫

『探偵はBARにいる』・優秀編集賞/只野信也

『八日目の蝉』・最優秀録音賞/藤本賢一


『いのちの停車場』  
DVD発売中 ¥5,170(税込)  
発売:小学館  
販売:東映・東映ビデオ

『キネマの神様』  
豪華版Blu-ray(数量限定生産): ¥7,370(税込)  
通常版Blu-ray: ¥5,170(税込)  
通常版DVD: ¥4,180(税込)  
発売: 朝日放送  
©2021「キネマの神様」制作委員会

『孤狼の血 LEVEL2』  
Blu-ray/DVD発売中  
Blu-ray: ¥5,280(税込)  
DVD: ¥4,180(税込)  
販売: 東映  
発売: 東映ビデオ

『隠れなかった者たちへ』  
Blu-ray/DVD  
2022年4月22日(金)発売  
Blu-ray: ¥7,150(税込)  
DVD: ¥4,950(税込)  
発売: 発売元: アニエース/フ  
©2021 映画  
『隠れなかった者たちへ』  
制作委員会

5



## 今村昌平 Shohei Imamura

学校法人 神奈川映像学園・日本映画学校 創始者

**映画監督**

1926年 東京生まれ

1951年 松竹大船撮影所に助監督として入社  
小津安二郎監督などの助監督を務めた後に 師・川島雄三監督と共に日活に移籍


1965年 今村プロ設立  
日本人の生と性を凝視したリアリズムを追求し続け 生涯20本の劇場用映画を監督

1983年 「檜山節考」 1997年「うなぎ」で2度 カンヌ国際映画祭最高賞パルム・ドール受賞

2006年 没

6






「遙かなる日本人」  
岩波書店刊

## 今村昌平監督が日本映画大学に託した願い

- 撮影所に代わって 映画スタッフを育成する
- 映画作りを通して人間を深く見つめ 自分自身を知る
- 安定を捨て荒野を目指す若者に 生きる術を与える



「撮る」  
工作舎刊

7



**映画評論家**

## 佐藤忠男 Tadao Sato

学校法人 神奈川映像学園・日本映画大学 名誉学長

1930年 新潟県生まれ

1956年 著作「日本の映画」でキネマ旬報賞を受賞  
わが国を代表する映画評論家として120冊を超える  
著作で芸術選奨文部大臣賞などを受賞  
映画による国際交流、特にアジア、アフリカ映画の  
日本への紹介や、日本映画の海外への紹介の功績で  
山路ふみ子映画文化賞 川喜多賞受賞

1996年 日本映画学校の校長に就任。  
2017年まで校長・学長を歴任し後進の育成に尽力した

2016年 C L E C Tシレクト世界映画学校連盟  
ベスト・ティーチング・アワード受賞

2019年 文化功労者

2022年 没

8

## 佐藤忠男名誉学長が確信した 映画の使命

映画で世界を愛し 人々を繋ぐ



「映画で世界を愛せるか」

岩波書店 刊

1945年 日本敗戦。佐藤15才  
アメリカ映画からヒューマンズムを学ぶ  
自信と希望にあふれるアメリカ映画を観ながら 発展途上国の映画への興味を抱く

- 世界を巡って出会った25か国の名作映画を日本で上映
- 映画こそ国の最良の自画像
- 映画が伝えるイメージが世界を一つに束ねて行く

9

### 2010--映画界のDX化 ☺ 2020年--2022 コロナ禍 DXとコロナ禍が映画と私たちに遺すもの

2010年代 映画界の完全デジタル化が進む 製作・配給・興行のすべての分野でのデジタル化が完了

2019年 日本を含む世界各地で興行収入の記録

- 2020年 ● 支援 Netflix 世界の制作スタッフに1億ドルの基金 ⇨ 日本フリースタッフに1億円(10万円×1000人)  
ソニー グローバル支援基金 映像クリエイターへの支援 ⇨ 日本映画撮影監督協会へ寄付金  
日本国内 ミニシアター支援 クラウドファンディング による3億3100万円 参加劇場数118館
- 興行収入 (世界) 前年比 28% 約115億ドル
- 製作リスタート ハリウッド “バブル” THE SAFE WAY FORWARD キャストを護るために万全を目指す  
日本 独自ガイドライン 日本映画製作者連盟 日本映画製作者協会 日本映画テレビ照明協会 など

2021年 ● 世界映画界の転換期の始まり

製作・配給・興行に配信を加えた 新しい映画循環システム の構築へ向かう

- OTT <Subscription VOD> 定額制有料動画配信 Netflix Hulu Disney+ Amazonプライム・ビデオ  
Over The Top <Transactional VOD> レンタル制 ペイパービュー U-NEXT dTV Amazonプライム・ビデオ  
<Premium VOD> 劇場公開 ● 同時有料配信 ● 17日後 ● 31日後 ● 45日後  
Netflix 21.6月 総加入者数2億900万人 Disney+ 21年6月 会員数 1億1600万人 (1年で4倍)

日本 映画界の持続的発展のための根本的取り組みが求められる

- コロナ対策と制作環境の改善を組み込んだ製作体制の確立  
前提となる製作費の上乗せへの対応で映画製作者の姿勢が問われる ⇨ +10% の対策費
- 映画制作の適正化  
クリエイターであり労働者である映画スタッフの働く環境を整備する  
⇨ 映画業界独自の自主規約の制定 と スタッフセンター の動き

2020-22  
Pandemic .

©SHOGO TOMIYAMA

10

2020-22  
Pandemic .

## OTTが広めた おうち映画の身近かさ

- Netflixのコンセプト  
映画に触れる機会を多くの人に提供する
- コロナと配信が広めた身近で手軽な娯楽  
＜おうち映画＞
- 日本の映画観客数  
1958年 11億2745万人 人口9200万人 1人12本  
2019年 1億9491万人(過去48年間最高)  
人口1億2600万人 1人1.5本  
配信が映画に触れる機会を増大させる  
最大値の可能性 平均1人年間12本 月1本 15億人  
その内映画館で2本 2億5000万人

## 「鬼滅の刃」が教えた 映画館鑑賞のお祭り気分

- 2020.10.16～初日3日間 動員342万人 興行収入46億円  
2021.8.1 興収 403億円 2900万人 日本映画歴代一位  
「千と千尋の神隠し」317億円
- ヒットの最大の要素はコロナ禍での娯楽への欲求  
映画館はコロナの不安と穢れを祓う 祭場まつりば
- 満員の観客と一体化して「鬼滅」の興奮と感動を共有する  
コロナ禍の沈鬱からひと時解放たれる  
映画館鑑賞の醍醐味を観客が体感した

＜ 感動の共有 ＞

©SHOGO TOMIYAMA

11

2020-22  
Pandemic .

- ライブアートとしての映画  
コロナは  
ライブアート 臨場芸術  
としての映画を浮かび上がらせた  
＜アナログ＞      ＜デジタル＞  
ライブアクション映画    +    CG. アニメーション映画  
CG出演者たちが  
アクションやラブシーンをすることも可能  
それに抗して ライブアクション ライブアートとしての映画  
体温と臨場感の伝わる映画作りを追求する  
スタッフとキャストも現れる  
それぞれの道を交叉させながら進み  
映画は生き残る  
二極化から生まれる多様性  
それを楽しむ  
**映画新時代**

- 祭りとしての映画  
コロナは映画館で  
映画を観ることの有難さを教えた  
**目を開けてみんなで一緒に観る夢**  
リアル臨場  
実感 肌感 臨場感  
**ハレの日の祝祭**  
祭りとしての映画制作を支える 作り手たち  
**並外れた情熱 膨大な情報量**  
**比類ない <新> 映像表現**

**日本映画大学の實習**  
2020年と2021年の2年間  
4年生は卒業制作  
1-3年生は年間2本ずつの實習制作をおこなった。  
大学作製のガイドラインを守り 感染者を最小限に抑えながら  
實習をやり切った学生たちの毎日の節制に敬意を表したい。  
**撮影現場に臨場すること。それこそが映画作りの醍醐味**

©SHOGO TOMIYAMA

12

### これからの映画界

COVID-19がリモートとCGを多用し、三密を避けた新しい製作システムを生んだ  
それに対してリアルな創作物 ● ライブアートとしての映画作りへの挑戦も続く

#### 感染対応 デジタル映画 vs 三密 アナログ映画

- **デジタルヒューマン** 役者と演技を完全にキャプチャして CG俳優が芝居をする  
アクションやラブシーン、年を取ったり若返ったりも可能
- **ライブアクション** **本番一発勝負**が生み出す **想定外効果**  
肌と肌のぶつかり合い 体温と**臨場感**を伝える映画作り

#### コロナが呼び覚ました ライブアート としての映画の魅力

汗 ● 涙 ● アクション

作り手の情熱と意欲が 映像表現を刷新し 前進させる

**アナログとデジタルを融合させながら映画は新表現を生み続ける**

その作品を**観客**が支える → **映画新時代**

**高い技術と柔軟な現場対応力を持ったスタッフが求められる**

©SHOGO TOMIYAMA

13

### コロナ禍に遭遇した私たちが映画の中から見出したもの

デジタル技術革新によって映像と映画は世界に広がり

楽しみ学びながら育ち 高い身体的文化資本を身に付けた世界中の受け手たちが  
作り手を支援し 自らも作り手となって行く。

コロナ禍の最中であっても 生活の中にコロナが課した枷を取り込みつつ

そのタブー <三密 / 濃厚接触>こそが 映画の生みの親であると気づき

身体を清め 警戒を怠らずに リアルとライブを求めて アナログの渦中に身を投じる。

纏まどつた新時代の映像リテラシーは

現実感と臨場感をセンサーとして作品を見極め

人生の価値の高位に映画を位置付け

自律自制した生活の中で

映画を作り、観て、語り、楽しむ

**発展の限界を知り 過剰を避け 浪費を自粛し 自足を学ぶ**  
**インターコロナの時代 人は映画 ●アート に人生の最高価値を見出す**

©SHOGO TOMIYAMA

14

## 新百合ヶ丘と日本映画大学のこれから

### インターコロナ時代(社会) ※齊藤環

現在のパンデミックが収まった後も 新しいウィルス感染の危険が常在する世界が続く  
そこで暮らす人々には状況を自覚的に判断し 各自で生活様式の切り替えを行う能力が求められる  
三密を伴って人が集い交わる **リアル臨場** ⇄ **リモート三密回避** 感染予防生活

インターコロナの時代  
人はアート に人生の最高価値を見出す

### 新百合ヶ丘

#### アートと共に暮らす街

アナログとデジタルが共生する  
ハイブリッド・エンタテインメント シティ

### 映画力で生き抜く

「映画を作る力があれば  
何だってできる」 天願大介

- できないではなく どうしたら出来るか
- 与えられた条件の中で 最善を目指す

©SHOGO TOMIYAMA